



# まごの店

## 高校生が 腕みかく

(2005)  
平成17年、五桂池ふるさと村にできた高校生レストラン。土日だけ開店、相可高校食物調理科の生徒たちが運営している。T・Vドラマにもなった。

五桂池ふるさと村は昭和(一九八四)59年3月に開村しました。地域の人たちが運営している五桂池の周りに作られたレジャー施設です。コテージでのキャンプ、バーベキュー、パターゴルフ、地元の野菜などを売るおばあちゃんの店、白鳥のボートなどが行楽客を集めてきました。平成(一九九三)5年には花と動物ふれあい広場も開園しました。そこに加わった「まごの店」は相可高校生が運営するレストランです。

温かい指導により食物調理科は充実し、調理クラブ員からは全国の料理コンテストに受賞者をたくさん出すようになりました。飲食業の実際を学ぶため平成(二〇〇二)14年、屋台スタイルのまごの店をふるさと村に開店。部員たちの熱意は多気町を動かし、平成(二〇〇二)17年コンテストで選ばれた工業高校生設計の高校生レストラン「まごの店」が完成し土・日曜日と祝日にすべて高校生が運営して開店しています。平成(二〇一〇)23年にはT・Vドラマになり、今では国際料理コンテストでも優勝するなど全国に名を知られています。



## 三重県の

## おへそにあるよ

## 多気の町

(二〇〇六)  
平成18年1月、勢和村と多気町が合併して現在の多気町になった。

(二〇〇六)  
平成18年1月、勢和村と多気町が合併して現在の多気町になりました。平成の大合併と呼ばれる全国で市町村の合併が行われた時期でした。

三重県ではこれまで69あった市や町や村が14の市と15の町、あわせて29の市町になり、村がなくなりました。旧多気町は昭和30年に相可町、津田村、佐奈村が合併、その4年後、西外城田村が編入合併してきた町でした。勢和村は丹生村と五ヶ谷村が合併してできました。それよりも昔、現在のほとんどの字はそれぞれ村としてなりたっていましたか

ら、明治初めの多気町域の村数は50近くもありました。

多気町という町名は明治以降、多気郡役所がおかれるなど多気郡の中心の町であったという意味を込めて選ばれたもの。新町名として引き継がれました。

最初の多気町ができた昭和34年、JR参宮線相可駅の駅名は町名に合わせて多気駅に変更されました。

今回の合併時点での人口はおよそ一万五千人、戸数はおよそ五千戸。面積はほぼ倍になりました。役場は旧多気町役場を使用し、朝柄の勢和村役場は勢和振興事務所になっています。



**村々をまとめた**  
**郷組 大庄屋**  
**勢州三領**

紀州藩の伊勢の領地は松坂・田丸・白子。大庄屋が庄屋を統轄する郷組があり、当町の殆んどは四疋田の大庄屋三谷家の四疋田組と下出江組に含まれた。

紀州藩徳川家は三重県にも領地があり、松坂・田丸（玉城町）・白子（鈴鹿市）に城を置いて代官が治め勢州三領と呼ばれました。

紀州藩では村の長を庄屋といいます。（名主ということころもあります。）

いくつかの村々で郷組というグループを作り、その代表が大庄屋でした。大庄屋は年貢の割り当てをしたり、藩からのお触れを村々に伝えたりします。農民には許されなかつた名字をつけることや刀を腰に差すことをゆるされる地土という身分の人から選ばれました。当町の三分の二は四疋田

組という郷組に属していましたが。四疋田村の庄屋三谷家が、大庄屋だったからです。代々三谷家が勤めてきましたが、一時期、波多瀬村の波多瀬家が、大庄屋だったときは波多瀬組と呼ばれました。上出江、下出江、丹生は松坂領の下出江組に含まれていました。ここも下出江村の野呂家が、大庄屋だったため、こう呼ばれたのです。

この他、当町の村は田丸領内の山神組に野中や森荘など七カ村、妙法寺組に東、西池上、土羽など四カ村が属しました。大庄屋は田丸城下の在会所に詰めて仕事をしました。



恵まれし大地に  
伊勢いもタケノコ  
みかん柿シイタ  
ケにお茶畑

津田地域の一部では江戸時代ですでにヤマノイモが栽培され、販売されていたという記録があります。櫛田川に沿った砂地で水はけがよく伊勢芋づくりに適していたのです。

明治になると一般農家に広がり、津田芋、松阪芋などと呼ぶようになりました。明治33年に伊勢薯の名が付けれ、今は伊勢芋で定着し、みえ伝統野菜品目「の一つに選ばれています。

栄養価が高く畑のうなぎとも言われますが、連作障害や栽培者の高齢化により栽培は減少しています。

三重県のお茶、伊勢茶は栽培面積、荒茶生産量のいずれも全国第3位。多気町ではゆるやかな丘陵地帯でお茶が栽

培されています。

昭和32年、平谷の前川唯一さんが発見した早生次郎柿は「前川次郎」と命名され全国で栽培されるようになりました。現在も多気町の柿栽培の中心品種です。

ミカンは佐奈を中心に栽培され観光ミカン狩りも行われています。筍は昭和初期、佐奈村が竹林組合を結成し特産地として知られました。現在も平成28年は40ト、29年14トの生産量をあげています。

椎茸は明治の中頃、車川で寺村善助さんが原木に切れ目をつけ自然に椎茸菌をつける栽培方法を始め、後、菌を原木に打込む方法で栽培しています。今はいろいろのきのこが栽培され出荷されています。



もめんやさだしちともきよ  
**木綿屋定七友清は**  
 不二孝信者で  
**万能の人**

朝柄の岡山友清は江戸で商売に励み、帰郷後、薬種商や木綿屋、鉄砲屋などを営んだ。かたわら農事改良にも力をいれ伊勢錦を開発し、不二孝(道)の信者として人々に尽くした。

江戸時代、十八世紀の末に朝柄で生まれた岡山友清(定七)は多方面で活躍しました。13歳のとき大坂へ奉公に出て以来、茨城県土浦や江戸などで奉公し商いを覚え、書を学びました。

友清は故郷へ帰り木綿屋や小間物屋・鉄砲屋・薬屋(金星堂)などの屋号で手広く商売をし成功、木綿屋定七の名で呼ばれました。しかし家庭では不幸が続ぎ、そのころ江戸で流行していた不二孝に救われます。富士山の神の下では男女や土農工商の四民は平等と説き、孝行・勤勉・儉約や社会奉仕をすすめる不二孝を広めた食行身禄は美杉村(津市)生れの人です。

た。信者が詰めかけていた美杉村で友清は行者の一人に出会い、教えに触れたのです。

幕府は四民は平等という教えが広がるのを恐れ、嘉永二(一八四九)年に富士講、不二道(孝)を禁止します。定七も江戸まで呼び出され取り調べを受けたこともありましたが。

飢饉が続いた惨状に心を痛めた友清は伊勢錦と名づけた収穫量の多い米の品種を開発し信者仲間を通して広めます。

その栽培法や農業・生活の改良方法など紀州藩や後には明治政府から依頼され講演したこともありました。

朝柄振興事務所(西隅)に建つ石碑は村のために尽くした岡山友清を称えたものです。